資料１

第４回子育て・教育部会　主な意見

《南松尾はつが野学園について》

Q. 南松尾はつが野学園になったことで子どもたちが変わったと感じることはあるか

⇒遊ぶ友だちが増えて、子どもが明るくなった。下級生に対する上級生の意識が芽生えた。

Q. 小中一貫校化によるメリット

⇒１～９年生の縦割り活動が活発　／　低学年を見る高学年の思いやりが芽生えること
後期課程（７年生以上）の姿に憧れを抱き、後期課程を楽しみにする子が多い
中学生ギャップが減る　／　後期課程になっても前期課程の先生が成長を見守る
部活動に５・６年生から参加できてよい経験　／　参観日が同日で保護者負担が減る

Q. 小中一貫校化によるデメリット

⇒後期課程（７年生）に上がる時の意識が薄まり、あまり自覚がないこと。

Q. 子どもたちはどの段階で小中一貫校化することについて知ったのか

⇒一貫校化決定の大体１年前くらいの段階。

Q. PTA 運営は前期課程と後期課程でそれぞれどうしているのか。

⇒前期後期合わせて本部役員 12 名。会長は後期課程から選出。

Q. 一貫校化への反対意見としてどのようなものがあったか。

⇒通学距離（最大約６km）の問題、100 年の伝統校が無くなることへの懸念。

《学校再編について》

●小中一貫校化の判断に向けた議論の順序について

・小中一貫校化を判断する前に、調整区域の校区域設定やそれにもとづいた児童推計が必要ではないか。まず人口の見通しがあって、校舎や設備等を決めるべきではないか。
⇒今の段階は、小中一貫校化をどうするか、という話であり、就学区域の問題等については、次の段階で機会を設けて話すことにする。
⇒小中一貫校化決定と同時位に、就学区域も決めていく。その際、調整区域の取扱いも判断する。その上で、校舎の規模や設備が決まることになる。（市）

・調整区域の住民にこの話は無関係と思われては、地域全体で良い学校作りができない。
⇒「地域とともにある学校」を大事にしたい。歴史的なことも含めて就学区域を検討する。（市）

●その他

・地域の人にとって、子どもたちを通わせたいと思えるような学校づくりをしたい。
・市の姿勢や理念を出してもらいたい。地域に呼びかけながら、計画を練る必要がある。
⇒市が理念を決める上で参考にしてもらう意見を出せる機会がこの場だと思う。
・小中一貫校化は子どもたちが主役のはず。当事者の意見を聞くべきではないか。
⇒現段階ではイメージが難しいのでは。大人側である程度レールを敷いてあげるべき。
・現役の保護者の意見をアンケートで聞くようなことをしてはどうか。